

母だか

か

こころ

そ
女。

「冬の華」「駅・STATION」「居酒屋兆治」そして——降旗康男監督作品

魔の刻



岩下志麻

坂上 忍
岡本かおり
伊武雅刀
山田辰夫
石橋蓮司
神山 繁
小林稔侍
常田富士男
宮下順子
岡田裕介

●企画/中西宏 ●プロデューサー/黒澤清 ●原作/北泉優子(講談社刊)
●脚本/田中陽造 ●撮影/木村大作 ●美術/今村力 ●録音/紅谷信一
●音楽/甲斐正人 ●照明/安河内史之 ●編集/鈴木邦
●製作協力/樹セントラル・アーツ ●宣伝協力/樹ヘラルド・エース
●カラー作品/パナビジョン ●製作・配給/東映セントラルフィルム㈱
●イメージ・ソング/エル・チャックロ/唄:石黒ケイ(アリス・イメージ・レコード)

一般映画制限付・R



魔

暮れなずむ広い河
口に、その先端が霞んで消え
入るような長い橋が架かっている。
その橋は、決して渡ってはならない橋だったのだろうか。
たとえば、許されぬ愛に架けられた、目には見えない虫の橋
のように。
名もない川が、名もない海にそそぐ——名もない小さな
港町で、いま頼りなげに母と子の二つの影が青白く揺ら
めいて交錯する。
家を捨て流浪し、ようやくこの港町に安らぎを見つ
けた19歳の少年・深。その少年を追ってきた、こ
の港町には不似合なほど美しい母・涼子。この二
人は東京の家で許されぬ罪を犯し、相前後して
愛を断とうとしながら、なお激しく身を寄せ合
う。その二人がやがて出会う奇妙な過去を持つ中年男、そしてもう
一人、少年に激しく愛を迫る港町の少女——。



の

母と子は、愛を断とうとしながら、なお激しく身を寄せ合
う。その二人がやがて出会う奇妙な過去を持つ中年男、そしてもう
一人、少年に激しく愛を迫る港町の少女——。
母子相姦というテーマに大胆直截に挑んだ女流作家・北泉
の同名原作は、その善悪、そのモラルの枠を超えて、ひとつの鮮
烈な愛とその内奥をきりひらいてみせる。文字通り日本映画が初めて挑むど
ラマのジャンルと言っても言い過ぎではなからう。
父は秀才の東大卒にして、大企業のエリート。この父のもとで東大入学を強
いられ、二浪しながら遂に果せなかつた少年が、これまた仕事一本の父に
疎まれつつけた母と、どちらからともなく結びつく一瞬。その魔の刻にはじ
まる二人の情念、愛の波紋が、時には激しく悲しく、時には恐ろしく妖しく
展開して行く。

刻

妻と母の間を翔びこえてしまったひとりの女の愛を掬いあげ
たい、と意欲の演出に挑む降旗康男監督は、「冬の華」(78
年)、「駅・STATION」(81年)「居酒屋兆治」(83年)に次ぐ仕
事。脚本は異才の名をほしいままにする田中陽造。企画は中西宏、
降旗監督とのコンビがつづく名手木村大作。企画は中西宏、
プロデューサーは黒澤満がそれぞれ担当のベスト・スタッフ。
出演陣は、ヒロイン涼子に「瀬戸内少年野球団」北の螢の
岩下志麻、その息子・深に俳優・歌手としてめざましい輝
きを見せる坂上忍、罪むう過去を持つ中年男に俳優兼プロデ
ューサーの岡田裕介、港町の少女・葉子に岡本かおりがそれ
れぞれ扮する他、伊武雅刀、石橋蓮司、神山繁、
小林稔侍、常田富士男、宮下順子、岡田裕介、
花井

- 企画 中西 宏
- プロデューサー 黒澤 満
- 原作 北泉優子
(講談社刊)
田中陽造
- 脚本 降旗康男
- 監督 木村大作
- 撮影 今村力
- 美術 紅谷愷一
- 録音 甲斐正人
- 音楽 安河内央之
- 照明 鈴木 晁
- 編集 鈴木 晁



- イメージ・ソング「エル・チョコロ」/唄：石黒ケイ(ディスコメイトレコード)
- 水尾涼子 岩下志麻
- 水尾 深 坂上 忍
- 葉子 岡本かおり
- 伊武雅刀
- 伊武雅刀 山田辰夫
- 鉄弥 石橋蓮司
- 西方 神山 繁
- 水尾敬一郎 小林稔侍
- 寿司屋の主人 常田富士男
- 福屋 宮下順子
- スナックのママ 岡田裕介
- 花井